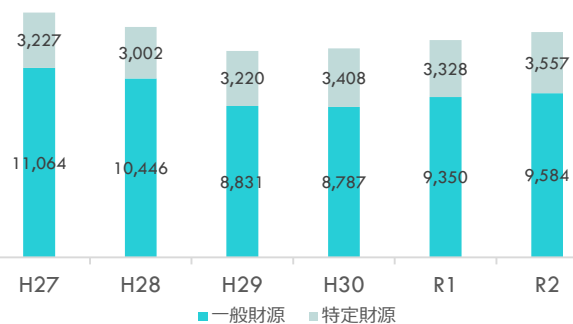
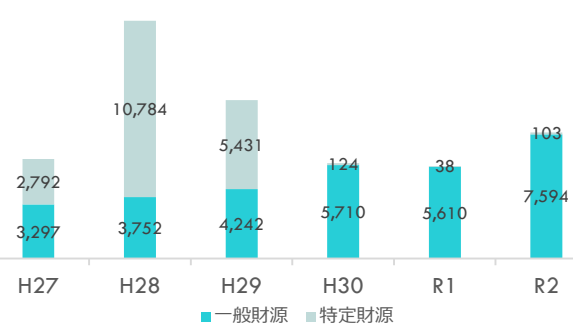


介護福祉課、地域福祉連携課、日生総合支所

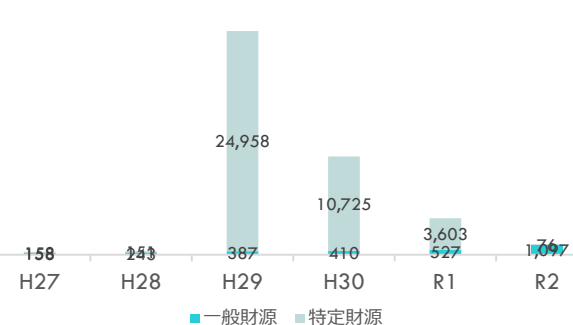
経常的経費の財源(万円)



臨時的経費の財源(万円)



普通建設事業費の財源(万円)

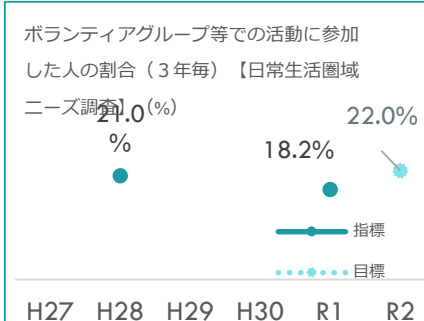
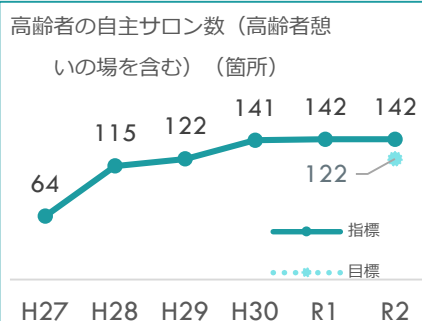
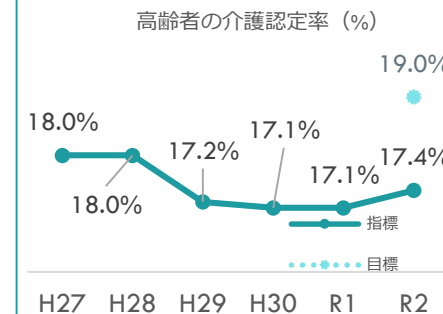
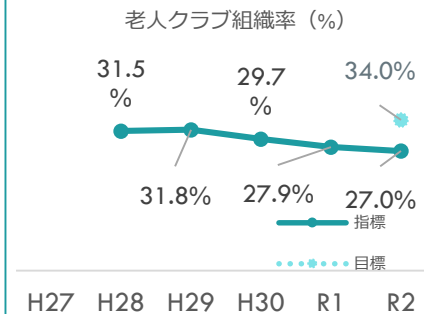
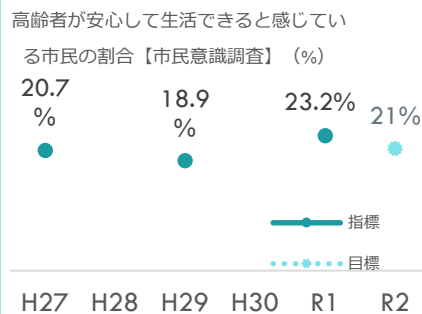


現状と課題

本市の高齢化率は36%を超え、高齢者のニーズは多様化しています。一方、日本が人口減少社会に突入した中で、「地域の支え合い」や「まちづくり」といった新たな視点を取り入れた持続可能な枠組みづくりが始まっています。

本市でも高齢者一人ひとりが住み慣れた地域で自立した生活を送ることができるよう、生きがい対策や就労支援、社会活動の促進に一層の取り組みが必要です。また、介護予防や重度化の抑制に取り組むとともに、一人暮らしや認知症の高齢者を、市民が相互に支え合う地域づくりを目指す必要があります。さらに、住み慣れた地域で希望に沿った療養生活が実現するよう、在宅医療と介護サービスの切れ目ない提供体制の構築が急がれています。

成果指標



指標の説明・・・

高齢者の自主サロン数の増加、老人クラブ会員数の割合の増加、ボランティアグループへの参加割合の増加により、社会参加や生きがい対策及び地域の支え合いが進んだこととなります。

介護認定率については、後期高齢者の割合の上昇で介護認定率も年々増加傾向にありますが、利用者への介護保険制度の理解、介護給付の適正化と介護予防事業の推進により伸び率を抑制することができます。

課題に対する主な取組

課題	課題に対する主な取組	概要	臨経区分	予算執行(万円)	特定財源(万円)	アウトプット(どのくらいの事業や取組を行ったか)	アウトカム(どれだけの成果が得られたか)
1人暮らし高齢者を支え合う地域づくり	民生委員児童委員活動助成事業	地域の相談役である民生委員児童委員協議会へ補助を行う。	経常的経費	878.4万円	786.8万円	行政及び委員間の情報共有の場である各地区会議の実施 18回	福祉行政報告例(第40民生委員の活動状況)相談・支援件数 4,449回
高齢者の生きがい対策	老人クラブ助成事業	老人クラブの活性化を図るため、クラブ活動へ補助を行う。	経常的経費	439.5万円	292.9万円	市老人クラブ連合会が行う健康づくり事業(6事業)及び地域奉仕活動等を行う単位老人クラブ(73クラブ)への補助	老人クラブ組織率の県平均比 137%
適切な要介護認定	介護保険制度の趣旨普及事業 介護給付適正化事業	パンフレットの作成、広報紙・ホームページへの掲載 要介護認定の平準化等の取組	特別会計	27.4万円	-	パンフレット作成 1回、広報紙への掲載3回、ホームページは随時更新 認定調査、認定審査の国や県との傾向比較分析1回	高齢者の介護認定率17.4%
社会参加による介護予防の推進	介護予防普及・啓発事業 地域介護予防活動支援事業	地域の通いの場等の活動支援(生き絆びせん体操の普及とフレイル対策、講師派遣やリーダー研修会、感染症対策の指導)	特別会計	116.4万円	77万円	通いの場の活動支援数 218回	通いの場に参加した高齢者の割合(月1回以上) 16.9%
地域での支え合いの醸成	通所付添サポート事業	通いの場に自力で通所出来なくなった人への送迎介助	特別会計	12.4万円	7.2万円	通所付添サポーター養成数 R2年度 5名 延34名	通所付添利用者数 延97人 " サポーター活動人数 延194人
高齢者の社会活動の活発化	通院交通費補助事業	寺山地区の高齢者に通院に伴う交通費を補助する。	臨時的経費	5.9万円	-	寺山地区対象者 1名に対し、交通費を補助	補助金利用率98.3%
住み慣れた地域で安心して暮らせる体制	介護渡航費補助事業	諸島地区の介護サービスを利用する高齢者等に渡航費を補助する。	臨時的経費	2.2万円	-	諸島地区介護認定者12人 障害者手帳保持者5人を対象に補助	大多府地区補助回数 69回

施策の評価

一次評価者	役職	介護福祉課長	高齢者一人ひとりが住み慣れた地域で自立した生活を送るための取組として、特に通いの場等の活動支援に重点を置いているが、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い活動を自粛していただくなど、予定した事業が実施できないものがあった。今後、高齢化の進む中では持続可能な地域での支え合いを目指す必要があるため、通所付添いサポート事業のように元気な高齢者を地域のボランティアとして養成するなど、支える側としての社会参加を促すための啓発が必要である。
	氏名	竹林 伊久磨	

二次評価者	役職	保健福祉部長	これからの少子高齢化の時代では、元気な高齢者が増え、地域での支えになっていただくことが求められてきます。老人クラブや通いの場が活発に活動することが地域の活力にも繋がると考えられます。活動支援や体操の普及啓発を行っていきましょう。認知症対策については、サポーター養成講座やサロン等積極的に取り組んでいるところではありますが、認知症高齢者は増加するといわれています。周囲の理解が重要ですので、サポーター養成を重点的に取り組みましょう。
	氏名	河井 健治	